

実践のまとめ（第3学年 社会科）

胎内市立中条小学校 教諭 貝田 雄飛

1 研究テーマ

社会的事象について、考察・構想する力を高める子どもの育成 ～主語を明確にした問題解決的な学習を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、「社会的な見方・考え方を働かせて、課題を追究したり、解決したりする活動を通して学習する。」ことが明記されている。

これらを実現するための方策として、問題解決的な学習活動が有効であると考えます。

問題解決的な学習の過程として、①児童が「問い」をもち続けること（主体的）、②友達、教師、専門的な人等、異なる立場の考え方を知り、多角的に考えること（対話的）③見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりする（深い学び）ことの3点が大切であると考えます。

今回の学習対象者である3年生児童にとって、社会科は今年度初めて学習する教科である。したがって、児童自らが主体的に学習する部分と教師と共に学び方を体得していく部分と両者が必要だと考える。

このことから、3年生の社会科学習においては、児童がもつ素朴な疑問を出発点とし、それを学習の中で深めながら解決へと向かう、ストーリー性のある問題解決的な学習過程を意図的に構成することが重要であると考えます。特に、学習の中で、「誰が」「どのように」社会に関わっているのかという主語を明確にすることで、児童は社会的事象を自分事として捉えやすくなり、考察・構想する力の育成につながると考えられる。

今回の単元では、火災について主語を明確にししながら、それぞれの役割を整理させる。その中で、児童は自らの役割に気づき、火災を防いだり、予防したりするための具体的な行動を考える姿が期待できる。

以上の理由から、本研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 単元ポートフォリオの活用

児童がもつ問いや連続的に問いをもち続けているかを見取るために活用する。ポートフォリオの作成を通して、児童は単元の学習課題を意識しながら、毎時間学んだことを蓄積できる良さがある。

② 火災に関わる役割表の活用（「誰が」「何を」の視点で）

見学やインタビュー活動、教科書や資料を用いた学びを通して得た知識を、「誰が」「何を」という視点で整理する。単元を通して学んだことを書き加えることで、それぞれの立場での活躍やその人々の繋がり、児童が自らの役割に気が付くことを期待する。

(3) 研究テーマに関わる評価

研究テーマに迫る手立てが有効かどうかを下記の2点で検証する。

- ・ 振り返りの記述による検証
- ①学級全体の評価人数 ②抽出児童の変容

3 単元と指導計画

(1) 単元名

地域の安全を守る～1火災からまちを守る～（教科書名 教育出版3年）

(2) 単元（題材）の目標

- ・ 消防署の働きについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、具体的な資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・ 消防署など関係機関の相互の関連や人々の生活との関連、そこに従事する人々の働きについて考え、考えたことを表現する力を養う。
- ・ 消防署の働きについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、地域社会の一員としての自覚を養う。

(3) 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 消防署の分布や消火栓や火災報知器、消防水利、消防団倉庫などの配置、働いている人の勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検、通信指令室を中心とするネットワークなどについて見学・調査したり、地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、消防署や地域の人々の諸活動について理解している。・ 調べたことを白地図や関係図にまとめ、消防署を中心に警察署など関係機関が相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none">・ 消防署の分布や消火栓や火災報知器、消防水利、消防団倉庫などの配置、働いている人の勤務体制や待機の仕方、訓練、施設・設備の点検、通信指令室を中心とするネットワークなどに着目して、問いを見だし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。・ 分かったことを関連付けたり、総合するなどして消防署を中心とするさまざまな関連機関の連携や従事する人々の働きを考えたり、学習したことをもとに社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。 | <ul style="list-style-type: none">・ 地域の人々の生命や財産を脅かす火災から、安全を守る働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。・ 学習したことをもとに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えようとしている。 |

(4) 単元の指導計画と評価計画（全9時間、本時5／9時間）

| 次 (時数) | 学習内容 | 学習活動 | 主な評価規準と方法 |
|---|---|--|---|
| 1 (2) | <ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く学習課題の設定。 ・単元の学習計画の作成。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ どうして胎内市の火災発生件数は、減っているのだろうか。 ・胎内市の平成30年度から令和4年にかけての火災発生件数の表を提示して、気が付いたことを交流する。 ◎ 火災が発生した時、「誰が」「何を」しているのだろうか。 ・教科書の火災が発生した時のイラストを見て、火災現場には、「誰が」「何を」しているのか見通しをもつ。 | <p>思考・判断・表現</p> <p>火災が発生した時に「だれが」「何を」しているのか予想を立てることができる。</p> <p>【ワークシートの記述】</p> |
| <p>単元を貫く学習課題：胎内市は火災をへらすために、どのような工夫をしているのだろうか。</p> | | | |
| 2 (4) | <ul style="list-style-type: none"> ・消防署をたずねて。 ・消防署の1日。 (胎内消防署の見学) | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 胎内消防署の隊員は、火災から人々を守るために、どのようなことをしているのだろうか？ ・胎内市付近の消防署の分布図を読みとり、最も身近な消防署は、胎内消防署であることに気付く。 ・消防署の仕事内容について、調べる。 ◎ 胎内消防署隊員は、火災から人々を守るために、どのようなことをしているのだろうか？ ◎ 消防署には、どのような設備があるのだろうか？ | <p>思考・判断・表現</p> <p>火災が起きた時に消防署ではどのような行動をするのかについて、予想を立て、疑問に思うことを書きだすことができる。</p> <p>【ワークシートの記述】</p> <p>知識・技能</p> <p>胎内消防署を訪ね、消防自動車や設備などを調べたり、職員の仕事について、インタビューしたりして、必要な情報を集めている。</p> <p>【ワークシート】</p> |

| | | | |
|------------------|--|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・消防署と様々な人のはたらき。 (本時) ・消防団の役割。 | <p>◎どうして、119番通報をすると、通信指令室に電話がつながるのだろうか？</p> <p>◎消防署の隊員と消防団は、何が違うのだろうか？</p> | <p>知識・技能 119番の通報の仕組みを捉えて、緊急時における関係機関との連携や協力について理解している。</p> <p>知識・技能 地域の消防施設について、設置場所や役割を調べるとともに、消防団など地域の人々は消防署と協力して火災に備えていることを理解している。</p> |
| <p>3 (3)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・火災を0にするために。 ・学校の消防設備を調べよう。 | <p>◎火災を0または、被害を最小限にするためには、何をすると良いのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の火災件数が増えていることから、火災の対処だけでは、件数を減らすことはできないことに気が付く。 ・火災が起きた時に、被害を最小限にとどめるためには、日頃からの「予防」が大切であることに気づき、これまで学習してきた内容について、火災に対する「対処」と「予防」のどちらなのかを分ける活動をする。 <p>◎学校では、どのように火災を予防しているのだろうか？</p> | <p>思考・判断・表現 消防隊員の日常的な仕事や、職員の勤務体系などを理解し、火災を「予防」する取組をしていることを理解している。</p> <p>知識・技能 学校の消防設備について、設置場所や役割を調べるとともに、学校は消防計画をつくり火災に備えていることを理解している。</p> |

| | | | |
|---|-------------------------------------|--|---|
| | <p>・自分やまちの安全をまもるためにわたしたちにできること。</p> | <p>◎火災の被害を0または、最小限にするために自分達ができる「予防」は、なんだろうか？</p> | <p>思考・判断・表現 地域社会の一員として自分たちにも協力できることや自分自身の安全を守るために心がけるべきことを選択・判断して表現している。</p> |
| <p>まとめ：胎内市は火災をへらすために、「火災0」「死者数0」を目標にして、「消防隊や救急隊などの救助する人だけではなく、地域の消防団や私たちが」「すばやく正しい対処をしたり、ふだんから予防に努めたり」工夫している。</p> | | | |

4 単元（題材）と児童（生徒）

（1）単元について

本単元は、大単元「地いきの安全を守る」の中にある小単元である。

火災が起きたときには消防車が来るという過去の安全教育や生活経験を基にしなが、社会的な事実と、その背景にある「しくみ」について捉えさせながら、理解させる。

「しくみ」は抽象的であるため、消防署への社会科見学や地図を使った調査活動、地域の方へのインタビュー等、体験を通して理解を深めていく。

児童は、「火災は、消防士さんが守ってくれるもの」という意識が強いことが予想される。それは、火災における「対処」の面である。学習を進めていく中で、「予防」の視点も大切であることに気が付き、児童自らできることの多くは「予防」にあることに気付かせたい。最後には、自らができることを構想（社会への関わり方を選択・判断）できる児童を育成したい。

（2）児童（生徒）の実態（男子23名 女子13名 計36名）

本学級の児童は、予想を立てたり、問いをもったりして学習に取り組むことができる児童が多い。社会科に対して、意欲をもって学習に取り組んでいる。

発達の段階もあり、調べ学習で集めてきた知識を整理することや情報に関連付けることに難しさがある。個々の能力差にも配慮し、全員が安心して取り組める授業作りをしたい。そこで、単元を通して、「誰が」「何を」を明確にした情報の蓄積をさせたい。また、児童の生活経験とのズレを生かした問いを出発点としながら、ストーリー性のある単元計画に基づいた問題解決的な学習を進めたい。

これらのことを通して、単元終末で、児童が「火災に関わって自らできること」を語るようにする。

5 本時の展開

（1）ねらい

胎内消防署と新発田消防本部の通信指令室を比較する活動や通信指令室からの指令カードをグループで協力して正しく並べる活動を通して、119番通報をすると、通信指令室に繋がることの良さに気が付き、通信指令室を中心として、様々な関連機関と連携・協力して火災に対処していることを理解する。

(2) 展開の構想

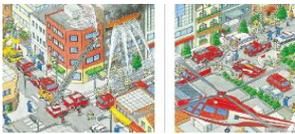
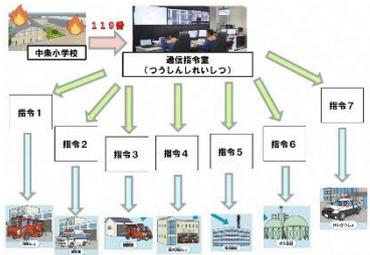
児童は、本時までには胎内消防署の見学を終えており、消防士の火災発生時の出動の方法や所持している道具などについて学習を深めている。

また、前時で消防士から聞いた内容を整理する時間を設けている。そこで、「119番通報をしても胎内消防署には電話は来ない。」という情報をもとに、本時の学習課題を立てている。

本時は、「自分たちの近くの消防署に電話が繋がった方が早く消火活動に入ることができる。」と予想する児童に、胎内消防署と新発田消防本部の通信司令室を比較する活動や通信指令室からの指令カードをグループで協力して正しく並べる活動に取り組みさせることを通して、通信指令室を中心とする119番通報の仕組みを理解させる。

(3) 展開

| 時間 (分) | 学習活動 | 教師の働き掛け 予想される児童（生徒）の反応 | □評価 ○支援 ◇留意点 |
|-----------|---------------------------------|--|---|
| | ①本時の学習課題を確認する。 | T 中条小学校で、火災が起きて、119番通報すると、どこに電話が繋がるのでしょうか？ C 胎内消防署だと思っていたけれど、新発田の通信指令室だった。 | |
| | ②通信指令室から、どこに電話をかける必要があるか予想を立てる。 | ◎ どうして、119番通報をすると、通信指令室に電話が繋がるのだろうか？ C そもそも、通信指令室って、どんなところなのかな？ T 通信指令室は、119番通報を受けて、色々な所に連絡するところです。 C 大きなモニターがある。 C 地図があるよ。ここで火災の場所を調べるのか。 C イヤフォンをしている人がいる。この人が連絡を受けたり、つないだりしているのか。 T 実は、胎内消防署だけではなく、もっと多くの所に連絡しているよ。 C いっぱい連絡している。どこに連絡するのかな？ | ○通信指令室の写真を提示。  ◇通信指令室が119番通報を受け、関係機関等に電話を繋げていることを知らせる。 ○黒板に通信指令室からの矢印を複数貼る。 |

| | | |
|---|--|--|
| <p>③通信指令室からの指令カードと指令先が正しくなるように班毎に「指令カード」の並び替えをする。</p> | <p>T 火災が起きた時に、通信指令室から、どこに連絡をすると思う？</p> <p>C まず、胎内消防署に連絡が必要。</p> <p>C 警察にも連絡する。</p> <p>C 病院にも連絡をするかな。</p> <p>T 他にも連絡する先があるけれど、これまでの勉強で参考にできる資料はないかな？</p> <p>C 火災現場図が使えるよ。</p> <p>C 電力会社の人に電話している。</p> <p>C ガス会社も来ている。</p> <p>C 他の消防署からも応援が来ている。</p> <p>T 通信指令室からの連絡先を予想することができましたね。では、どんな指令が出るのでしょうか？これから、班で協力して、「指令カード」と連絡先が合うように、指令カードを並べてください。</p> | <p>○児童の発言を板書。</p> <p>○単元2時間目で配付した火災現場図から調べる。</p> <p>◇黒板に火災現場図を貼る。</p>  <p>○胎内消防署の救急車や消防車の台数と図の台数を比較させ、応援が来ていることに気付かせる。</p>  <p>知要求に対する適切な連絡先を選ぶことができる。</p> <p>◇この活動を通して、火災が発生した際に連絡先それぞれが担う役割について、簡単におさえる。</p> <p>例) 警察が交通整理をすることで、市民が火災現場に近づかないようにする。</p> <p>○指令カードの場所を確認するとともに、なぜ指令を送るのか確認する。</p> |
| | <p>T 指令カードを並べ終わったら、なぜ警察やガス会社などに連絡するのか理由を書き込んでみましょう。</p> <p>T 指令カードをどこに置いたか全体で確認しましょう。</p> | |
| | <p>T : どうして警察は交通整理をするの？ C : 火災に近づいて、けが人をふやさないため。 T : ガス会社に連絡するのはなぜ？ C ガス爆発をおこさないため。 . . .</p> | |

| | | | |
|--|--|---|---|
| | <p>④119番通報すると新発田広域消防本部の通信指令室に繋がる良さをまとめる。</p> <p>⑤学習の振り返り</p> | <p>C通信指令室から、色々なところに、電話が繋がっているのだね。</p> <p>T 119番通報すると、胎内消防署ではなく、通信指令室に連絡が行くとどんな良さがあるのかな？</p> <p>C火災の情報が一つ場所に集まるから、色々なところに、指示や連絡ができる。</p> <p>C色々なところに連絡がいくから、みんなで協力して火災から命を守ることができる。</p> <p>まとめ：119番をすると通信指令室に繋がるのは、情報を1つに集めることで、色々な所と協力して、直ぐに火を消したり、人を助けたりできるから。</p> <p>T 今日、分かったことを振り返りましょう。</p> | <p>◇時間に応じて、火災現場の水圧を上げるために「水道局」にも連絡することを確認する。</p> <p>◇119番通報すると胎内消防署ではなく、通信指令室に繋がる良さを問い返しにより深める。</p> <p>○良さを言語化することが難しい場合は、胎内消防署に電話が直接つながると、どんな困難があるか想起させる。</p> <p>思119番の通報の仕組みを捉えて、緊急時における関係機関との連携や協力について、表現できる。</p> |
|--|--|---|---|



(4) 評価

評価方法：振り返りの記述と発言の様子

| | A | B | C |
|-------|--|---|-------------------------------------|
| 基準 | 通信指令室に情報が集約される良さが分かり、具体的な場面を想定して、その良さを記述することができる。 | 通信指令室に情報が集約される良さが分かる。 | 通信指令室に情報が集約される良さが分からない。 |
| 記述の具体 | 119番通報すると、新発田にある通信指令室に連絡が行きます。通信指令室が正しい情報を判断して、色々なところに連絡します。そのため、病院がけが人を受け入れたり、他の消防署が応援に駆けつけたりすることができます。 | 119番通報すると、新発田にある通信指令室に連絡が行くと分かりました。通信指令室が正しい情報を判断して、色々なところに連絡します。 | 119番通報すると、新発田にある通信指令室に連絡が行くと分かりました。 |

6 実践を振り返り

(1) 授業の実際

【手立て① 単元ポートフォリオの活用】

単元の2時間目に、「胎内市では火災を減らすために、どのような工夫をしているのだろうか」という単元全体の学習課題を設定した。

この課題の解決に向け、児童は毎時間、消防士、通信指令室、消防団など、火災に対処する人々の働きについて調べ学習を行った。

各時間の学習記録や、教師が提示した資料

(火災発生件数のグラフ等)はノートに貼り付け、学習内容が蓄積されるようにした。上に示した単元ポートフォリオはロイロノートで提示したもので、左側には毎時間の振り返りを写真で記録し貼り付けさせた。また、学習を進める中で、火災から胎内市を守る人々とその具体的な働きを右側に整理して記録することで、授業で扱った「誰が」「何を」が一覧できるようにした。



【手立て② 火災に関わる役割表の活用（「誰が」「何を」の視点で）】

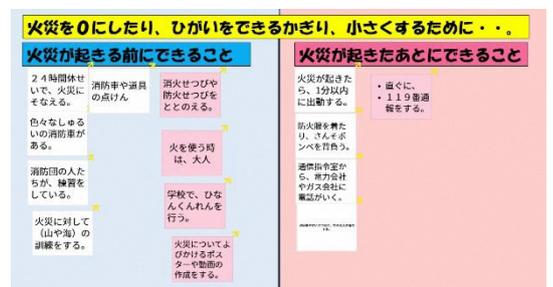
単元の1時間目に右のイラストを提示し、火災現場に登場する「人」に意識を向けさせた。これにより、単元導入時から「どのような人が関わっているのか」を捉えることができ、彼らが現場で「何をしているのか」は単元を通して探究すべき課題として位置付けた。



手立て①の蓄積活動により、「誰が」「何を」の知識は学習の中で登場するたびに児童の理解として積み重ねられた。特に単元4時間目の通信指令室の学習では、多くの「人」が登場し、その役割を児童自身が関連付けてポートフォリオに記録する姿が見られた。単元5時間目には右のグラフを提示し、「火災は被害0・死者0・件数0でなければならない」との意見が生まれた。件数0を目指すためには火災が起きる前の対策が必要であるという予想も多く、学級全体で「火災が起きてから行うこと＝対処」「火災が起きる前に行うこと＝予防」と定義し、視点を共有した。この共通理解を基に、児童はさらに調査活動を進め、火災を減らす工夫を多面的に考えた。



また、単元6時間目の「何を」に着目して対処と予防に分類する活動を通し、児童は火災を防ぐ取り組みが多様な人々によって行われているだけでなく、「自分たち」もその一員であるという意識を高めた。



単元計画の段階では、単元ポートフォリオ右側の「だれが」「何を」の欄で役割を整理させる予定であったが、児童は整理よりも学習中の情報をメモとして蓄積する傾向が強かった。そこで

新たに表を作成し、役割を分類して記述させる活動を行った結果、多くの児童が自力で火災に関わる人々の役割を整理・記述できるようになり、「対処」と「予防」の違いも意識しながら学習内容を構造化できた。

(2) 研究テーマについて

①振り返りの記述について学級全体評価の様子

【単元9時間目 振り返りの記述評価基準】

火災について「ひがい0・死者0・件数0」を目指すために、

①**対処**と**予防**の両方の視点から、具体的な事例を挙げて振り返りを記述することができる。

②**自分にできること**について考え、具体的に記述することができる。

A評価・①について、対処と予防を正しく区別し、両方を具体例を用いて記述できている。

・②についても、自分ができていることを具体的に記述できている。

B評価・①について、対処と予防を正しく区別して記述できている。

C評価・AおよびBの基準を満たしていない。

特別支援学級在籍児童を除き（国語や算数における振り返り記述の経験に差があるため）、学級29人の児童を対象として評価した結果、A評価21人、B評価6人、C評価2人であった。

単元を通して「誰が」「何を」という視点で学習内容を蓄積していったことにより、単元終末の振り返りを自力で書くことができる児童が多く見られた。また、火災に関わる人々の役割表を作成したことで、それぞれの役割が重要であることを理解し、「さまざまな人々が協力することで、ひがい0・死者0・件数0を目指す」という趣旨の記述をした児童も多かった（A・B評価の児童23人）。

②振り返りの記述について抽出児童の変容

A児

| 1時間目 | 5時間目 | 9時間目 |
|---|--|---|
| 胎内市の火災の件数がへっていることが分かった。火災は、消防士さんがかっやくしていると思う。 | 火災は、件数0、死者0、ひがい0じゃないといけないと分かった。特に、件数0にすれば、ひがいも死者もでないのので、予防が大切だと思う。 | 胎内市の火災について、ひがい0、死者0を目指すために、「対しょ」が大切だと分かった。対しょは、消防士さんが直ぐに出動したり、火を消したりすることだ。また、けいさつが交通整理したりもする。 件数を0にするためには、「予防」が大切だと分かった。ひなんくんれんや火災を注意するポスターを作るなどがあった。 私たちにもできることがあって、大人のいないところで火を使わないことや119番をすること、火災がおきたらすぐにひなんすることをがんばりたい。 |

B児

| 1 時間目 | 5 時間目 | 9 時間目 |
|------------------------------------|--|---|
| 火災のイラストを見て、色々な人が火災の場所に集まっていると分かった。 | 火災は予防もひつようだと分かった。ひなんくんれんも予防だと思うから、私たちにもできることがありそう。 | 胎内市の火災について、ひがい0、死者0を目指すために、「対しょ」が大切だと分かった。対しょは、消防士さんが火を消したり、けいさつが交通整理したりする。通信指令室に電話がいくことで、いろいろなところが協力している。 件数を0にするためには、「予防」が大切だと分かった。予防は、しせつ面と行動面があった。新校しゃにも火災から守るためのおおくの工夫があった。行動面としては、ひなんくんれんに取り組んだり、お出かけしたところのひなん場所を確かめることも大切だと思った。 |

A児に関しては、当初「火災からまちを守るのは消防士の役割」という既存の知識に基づいていたものの、単元終末には「予防」の視点に着目し、自分たちにも火災を防ぐためにできる取組があると考えるようになるなど、思考の広がりが見られた。

一方、B児は、単元当初から「多くの人が火災に関わっている」という予想をもつことができていたが、それぞれの人が「何をしているのか」については、学習を進める中で徐々に理解を深めていった様子が見える。また、通信指令室の働きを捉え、関係機関が連携・協力していることを理解するなど、火災対応の全体像をとらえる力を伸ばしていた。さらに、「私たちにできること」についても予防の視点から考え、施設面と行動面の両面から具体的に述べる姿が見られた。

(3) 課題

【手立て① 単元ポートフォリオの活用】

振り返りの変容を捉えるためには、単元導入時と単元終末時を比較する必要があった。児童に導入時と終末時に同じ質問を提示し、導入時には自分の「予想」を記入させておく仕組みにすべきであったと考える。

また、3年生という発達段階を踏まえると、毎時間の振り返りを一覧としてまとめて貼る方法は効果が十分に得られなかった。それよりも、授業の中で獲得した「誰が」「何を」という知識をキーワードとして蓄積していく方が、単元終末のまとめに活用しやすかったと言える。

一方で、単元終末でC評価となった児童については、ノートとタブレットを併用する形式が負担となり、知識の整理よりも操作に時間を取られてしまう様子が見られた。児童が自分に合った整理方法を選択できるよう、複数のツールを用意するなどの支援が必要であった。

【手立て② 火災に関わる役割表の活用（「誰が」「何を」の視点で）】

本来であれば、これらの学習を単元ポートフォリオ内で完結させる計画であった。しかし、児童のロイロノート操作技能には大きな個人差があり、結果としてポートフォリオは“メモ程度の活用”にとどまった。そのため、必要な情報を整理する際には、役割表に類似したワークシートを繰り返し提示する形となってしまった。

このことから、児童の実態を的確に捉え、紙とタブレットのどちらを主たる学習ツールとするかについて、活用の有効性を検討する必要があったといえる。

7 参考文献

- ・ 錦織圭之介、平成 29 年版小学校学習指導要領ポイント総整理 社会、東洋館出版、2017
- ・ 澤井陽介・加藤寿朗、見方・考え方（社会科編）、東洋館出版、2019
- ・ 宗實直樹、宗實直樹の社会科授業のデザイン、東洋館出版、2021
- ・ 米田豊、「主体的に学習に取り組む態度」を育てる社会科授業づくりと評価、明治図書出版株式会社、2021